化粧・補整下着・美容外科に対する意識について
―女子短大生を対象とした事例的研究―

斉藤秀子*)、瀬戸瑠美**)、薩本弥生***)、丸田直美**)、呑山委佐子****)

キーワード：補整下着、化粧、美容外科、女子学生

要　旨

美容医療の苦情は1997年から増加の傾向にあり、女性の美意識に関連した大きなビジネスが発展するとともに問題も生じているといえる。そこで、女性の美意識に関連する行動である女性の化粧、補整下着の着用、美容外科についてその意識を分析し、女子短大生の実態を明らかにしようと試みた。アンケート調査は2005年に短期大学生を対象として実施した。その結果、短大生は自分の身体に対して否定的な意識を持ち、現在使用している化粧、補整下着は限定されているが、今後、しみやたるみ、しわには化粧品を使用し美容外科の治療をしたい、補整下着であるガードルやボディスーツ、ハイヒールを利用したいと考えていることが明らかとなった。

1．緒　言

今日、数多くの女性誌に化粧に関する記事が見られ、また、女性を対象とする週刊誌を中心として美容外科関連の宣伝が数多く掲載されている。一方、美容外科関連の苦情は1997年から増加の傾向にあり、国民生活センターの苦情相談は2000年から５年間で70％増えたと新聞に報道されている[1)2)]。美容外科の治療に関する苦情の増加に対して、このような新聞報道により注意が喚起されているとともに、社団法人日本美容医療協会は『安心できる美容医療の正しい知識』を発行[3)]、市民講座を開催、配付し、美容外科について正しい知識を持つよう啓蒙活動を行っている。しかし、女性の美意識によると推察される化粧への関心は、高齢者はもとより[4)]、子どもにも及んでおり[5)]、このような現状が、今後、美容外科での治療への興味へと発展するのではないか、あるいは、補整下着の着用とも関連するのではないかと考えられる。

補整下着、化粧、美容外科については、被服分野[6)]、化粧品メーカー[7) 8)]、美容外科の分野[9) 10)]で研究が行われてきた。しかし、これらの研究は、女性の美意識に関わる行動である、化粧、補整下着の着用、美容外科の治療のうち、ある側面からの検討となっており、これらの相互関係で、女性の美意識について検討した事例は少ない。そこで、著者らは若年群と中年群との美意識の違いについての検討に引き続き[11)]、美容外科の治療のトラブル防止の観点を背景として、若年群を対象に、化粧、補整下着、美容外科に対する意識について、特に、こ

（所　属）
*) 山梨県立大学　**) 共立女子大学　***) 横浜国立大学　****) 大妻女子大学

れらの経験、現状、今後に着目し調査、検討した。

２．方法

２．１　調査方法

調査は2005年10月から12月に、東京都のO女子大学短期大学部、家政学関連学科の学生540名を対象として、質問紙による集合調査法により実施した。回収数は534部、回収率は98.8%であった。

２．２ 質問項目

2003年および2004年の若年群、中年群それぞれを対象とした化粧、補整下着、美容外科に関する調査[11]、分析では、若年群では化粧はファッションと欠点のカバーのためという意識のもと、目の周囲を化粧する顕著な傾向が見られた。中年群については下着による補整を行っているが、これらと美容外科の治療との関連は認められなかった。そこで本調査では、若年群を対象に化粧、補整下着、美容外科に関わる意識と実際の行動との関連について、あるいは自分の身体についての満足感との関連について分析すべく次のような調査項目とした。

調査対象者については年齢、居住地、経済状態、初めての化粧年齢とその理由、ファッションに対する意識、自分の身体に対する意識を調べた。さらに、化粧、補整下着とハイヒールの使用経験、使用状況、今後の使用希望、美容外科の治療の経験と今後の希望を聞いた。あわせて、化粧、補整下着、美容外科に対する意識を聞いた。

なお、本調査の化粧の範囲はメイクアップとスキンケア（肌の手入れ）を含むものとして、質問項目を準備した。補整下着については、ワイヤー入りまたはパッド入りブラジャー、ボディスーツ、ガードルとし、美容外科の治療については脂肪の吸引から皮膚の老化への対応まで幅広い内容とした。

２．３　分析方法

ファッションに対する意識、自分の身体に対する意識、化粧、補整下着、美容外科に対する意識については「そうである」「ややそうである」「あまりそうでない」「そうでない」 の4段階の回答を求め、それぞれを４、３、２、１の評定尺度とし、因子分析を行った。 また、使用経験、使用状況に関しては「はい」２、「いいえ」１の２択、今後の使用については質問項目に応じたに回答それぞれ４、３、２、１の評定尺度を当てはめ、回答割合を求めた。データの分析には統計処理ソフトSPSS Ver.23を用いて、分散分析、平均値の差の検定（t検定）、因子分析、重回帰分析を行った。有意水準は、*:p<.05、**:p<.01、***:p<.001とした。本報告では、回収した534部の調査票のうち、ファッションに対する意識、化粧、補整下着、美容外科に対する意識についての質問項目にすべて回答している212部について分析を行った。

３．結果および考察

調査回答者は家政系短期大学の学生で、平均年齢は19.1歳、関東近県に居住していた。

初めての化粧年齢を、化粧内容を特定せずに聞いたところ、平均13.8才、その理由の自由記述は「興味」「きれいになりたい」、「おしゃれを楽しみたい」、「化粧をしてみたい」、「七五三」、「周りが始めた」であった。これを1998年の調査[12] と単純に比較はできないが、自発的に化粧に興味を持ちはじめている傾向があると推察された。

図１は自分の身体に対する満足度について聞いた結果である。脚の太さ、太りやせの程度、ヒップのサイズ、ウエストのサイズについて、「満足でない」、「やや満足でない」の回答で合わせて80%以上が不満足であるという結果となり、従来より指摘されている若年女子の「やせ願望」が考察される[13)]。

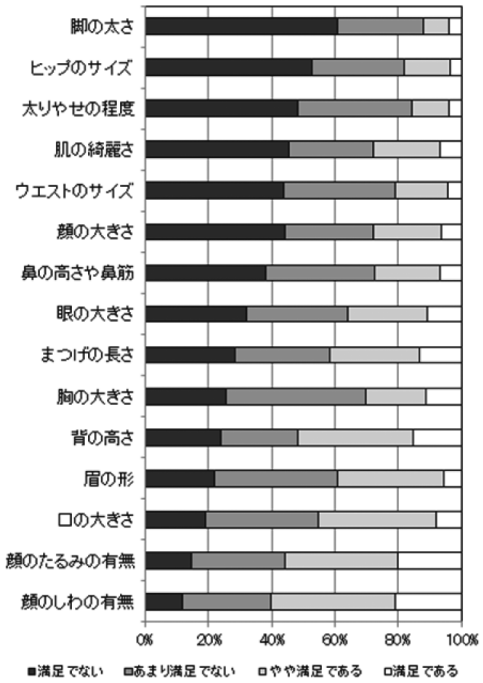

図１　自分の身体に対する満足度

図２に化粧品についての使用経験、使用状況、今後の希望の比率を示した。今後の使用希望については「ややそうである」「そうである」の回答をあわせた結果を示した。その結果、アイシャドウ、マスカラなどの目の周囲用化粧品、ファンデーションやまゆずみ､頬紅が多く用いられていた。口紅に関しては、現在の使用は47.2%と半数に満たない結果となり、口元よりも目元に意識が高い傾向がみられた。今後の使用希望についてみると、現在使用中の化粧品については95%前後で今後も使用したいと答えていた。さらに、美白やしみ防止化粧品で90.5%、しわやたるみ防止65.6%、セルライト防止などの痩身用ボディ化粧品は75.4%が今後用いたいと答えていた。現状では問題となるしみ美白やしみ防止化粧品を使用し、将来の老化を予想ししわやたるみ防止化粧品を使用したいという希望があると推察される。

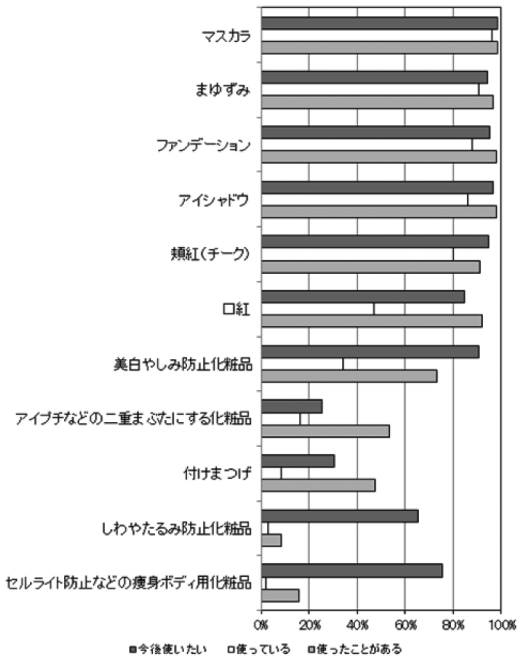

図２　化粧品についての使用経験、使用状況、今後の希望

図３に補整下着とパンプスの着用について、同様に示した。補整下着について現状では使用してないガードルやボディスーツを今後使用したいという希望が20～40%であった。パットの入ったブラジャーを今後使用したいという希望は約60%であった。パンプスに関しては、現状の使用は中ヒールが71.7%でハイヒールは44.8%と半数を切る。今後の使用希望に関しては中ヒール84.9%で、ハイヒールも59.9%と6割近くが希望していた。

図４に美容外科治療の経験と今後の希望について示した。治療の経験があるとの回答は、二重まぶたで0.9%、胸を大きくする0.5%、永久脱毛8.5%であった。永久脱

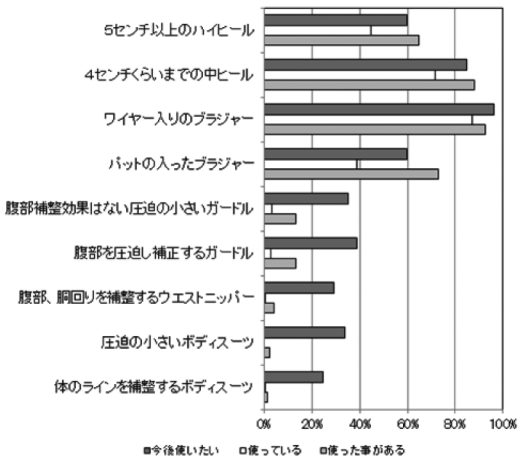

図３　補整下着とパンプスについての使用経験、使用状況、今後の希望

毛は比較的気軽に受けることができる美容外科の治療として捕らえられていると考えられ、その経験は他の治療と比較して多い傾向にあった。美容外科の治療の今後の希望についてみると、永久脱毛の治療希望がもっとも多く、80%を超えていた。次に、しみ、そばかす、ほくろの除去、脚部の脂肪の吸引などの身体修正の治療希望が多く、いずれも40%を超えていた。

さらに腹部の脂肪吸引による痩身、肌の若返りについても35%以上が希望していた。隆鼻術やあごの形成、豊胸術、たるみ、しわの除去、二重まぶたの形成についても20%前後の希望があった。美容外科の治療

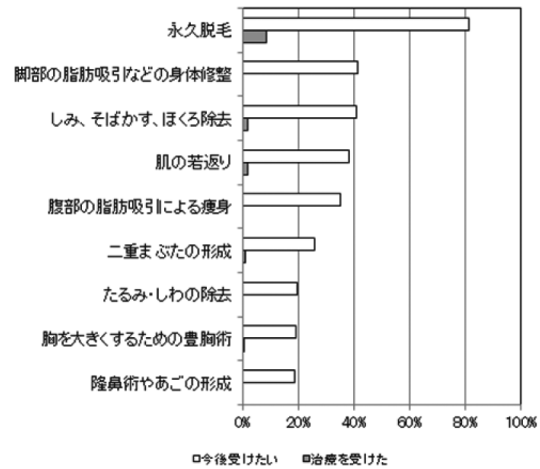

図４　美容外科治療の経験と今後の希望

に対する希望は、高校生、大学生を対象とした1980年の調査では21.3%[9]、2003年の著者らの調査では46.8%であった[11]。今回の調査では具体例による質問であったためか、平均すると2003年の調査より希望は少ないが、肌の若返り、しみ、そばかすほくろの除去、たるみ、シワの除去など40%以上の学生が希望しており、美容外科治療への希望は少なくないと推察される。

このように、若年層である女子短大生は、目の周りの化粧を行い、ワイヤー入りブラを着用し、美容外科の治療についてはまだ行ってないが、今後は体型補整のためのガードルやボディスーツを着用、老化に対応する化粧品の使用、あるいは体型を整える美容外科の治療を希望する傾向を持っていることが推察される結果となった。

本調査項目のファッションに対する意識についてのプロマックス回転、主因子法による因子分析を行った結果、第１因子には他者の評価に対する意識、第２因子にファッションに対する意識、第３因子には衣服の機能性に対する意識、第４因子に経済性因子が分析された。また、化粧、補整下着、美容外科に関する調査項目についての因子分析の結果、第1因子には補整下着美容外科による身体改造肯定意識、第２因子には化粧肯定意識、第３因子には美容外科治療安全性不安、第４因子には他者追随肯定意識、第５因子には経済性重視の５因子が抽出され、どちらの分析にも経済性因子が含まれる結果となった。

相互の因子の相関を見るにあたり、経済性因子が重複するため、ファッションに対する意識と、化粧、補整下着、美容外科に関する項目をあわせて、全調査項目についての因子分析を行った。この結果を表１に示した。第１因子に補整下着美容外科によ

表１　ファッション、化粧、補整下着、美容外科に関する全調査項目についての因子分析結果

	因子							
	1	2	3	4	5	6	7	8
圧迫があるガードルやボディスーツなどで体を整えたい	.828	-.010	-.057	.085	.009	.116	.083	.008
ガードルやボディスーツで体型を整えたい	.813	.022	-.008	.060	-.036	.267	.010	-.070
補整下着にお金をかけてまで体を整える事は無い	-.568	-.049	.094	.170	.033	.143	-.099	.229
ブラジャーやガードルなど補整下着は付け心地が悪くとも、きれいに見えるのであればよい	.489	.034	-.064	-.011	.106	.259	-.150	.032
補整下着で体型を整える必要を感じない	-.478	.062	-.033	-.014	-.034	.359	-.070	-.047
美容外科の治療を受けて綺麗になりたい	.459	.034	.139	.073	.184	.043	.009	.094
補整下着は圧迫感があるから好まない	-.415	.137	-.055	.096	.077	.381	.028	-.179
人と違うファッションがしたい	.045	.817	-.033	.136	-.083	-.148	.012	.076
グループの中で目立った服装をするのが好き	-.018	.673	.018	-.019	.048	.113	-.101	.024
服装で自分自身の魅力や個性を表現したい	-.054	.527	.083	-.076	.285	-.043	.153	-.047
非常識だと思われる服装はしたくない	.020	-.375	-.015	.148	.181	.008	.201	.001
化粧をして欠点を隠したい	-.064	-.071	.745	-.007	.052	-.008	-.147	.039
化粧をして自分の長所引き出したい	.004	.147	.708	-.036	-.112	-.021	.062	.056
化粧をして周りの人に良い印象を与えたい	-.016	-.061	.626	.083	-.014	.209	.156	-.131
美容外科の治療について失敗するのではと不安である	.006	.035	-.025	.936	-.083	-.114	-.127	-.010
美容外科の治療を受けるのはとてもお金がかかる	-.092	-.136	-.040	.472	.131	-.009	.198	-.029
美容外科の治療の痛みに不安がある	.150	.159	.093	.457	-.113	-.052	.004	-.087
美容外科の治療を受ける事に対し親や周りの目が気になる	.152	-.021	.050	.257	.143	.109	-.023	.174
今どのようなファッションが流行っているか知りたい	.034	-.107	-.019	.010	.658	-.032	-.189	.079
ファッション雑誌をよく読む	.069	.027	.006	-.067	.650	-.109	-.117	-.045
服を着るときアクセサリーをつける	.036	.084	-.078	-.010	.498	.012	.179	-.049
周りの人が下着で補整しているので自分もしている	.151	.024	.066	-.215	-.017	.592	-.029	.068
周りの人が化粧をするので、自分もしている	.038	-.078	.044	.022	-.096	.470	-.015	.091
安い服であれば気に入らないところがあっても買う	.052	-.043	.031	.032	-.027	.357	-.049	-.060
化粧をすることは必要ないと思う	-.115	.070	-.219	.024	-.032	.286	.110	.204
服は流行よりも実用性を重視する	.086	-.099	.010	-.056	-.100	.000	.732	-.050
服は外観より動きやすさなどの着心地を重視する	.051	.037	-.015	.022	-.073	-.058	.532	.243
外出の目的にあった服装をしたい	-.114	.043	.058	-.017	.218	-.137	.306	.036
化粧品にお金をかけるのはもったいない	-.009	.063	.003	-.038	.007	.049	.070	.944
気に入った服でも高ければ買わない	-.062	-.133	.031	-.056	-.111	.151	.130	.164

る身体改造肯定意識、第2因子に他者評価重視、第３因子に化粧肯定意識、第４因子に美容外科治療安全性不安、第５因子にファッション興味、第６因子に他者追随肯定意識、第７因子に衣服機能性重視、第8因子に経済性重視の全部で８因子が抽出された。

次に、今後の化粧、補整下着に対する希望行動の４件法の回答について、因子分析を行った結果を表２に示した。その結果第１因子には補整下着等での変身行動、第２因子には美容外科施行、第3因子には化粧行動、第４因子に目周辺化粧行動の因子が抽出された。

これらの２つの分析により得られた因子得点について希望行動の各因子を従属変数にファッション、化粧、補整下着、美容外科に関する因子を独立変数に重回帰分析をおこなったところ、因子ごとに影響する有意な因子が抽出された。その結果を表３～６に示す。重回帰分析結果の有意に寄与する独立変数の標準化係数をβで示す。

希望行動の第１因子である補整下着等での変身行動には身体改造肯定意識（β：0.614）と、他者追随肯定意識（β：0.148）が、係数に応じた割合で有意に寄与した（表３）。希望行動第２因子の美容外科施行には、身体改造肯定意識（β：0.300）と他者評価意識（β：0.191）が有意に寄与した（表４）。希望行動第３因子の化粧行動には、身体改造肯定意識（β：0.214)、化粧肯定意識（β：0.176)、ファッション興味意識（β：0.292）がプラスに寄与し、美容外科治療安全性意識（β：-0.155）がマイナスに影響した（表５）。希望行動第４因子の目周辺化粧行動には、他者追随肯定意識（β：0.268）がプラスに寄与し、身体改造肯定意識(β：-0.173)と、衣服機能性重視（β：-0.167）がマイナスに影響した（表６）。第４因子の目周辺化粧行動は、アイプチと付けまつげを主とする目周辺の

表２　今後の化粧、補整下着に対する希望行動についての因子分析結果

	因子			
	1	2	3	4
ｳｴｽﾄﾆｯﾊﾟｰ今後使用希望	.913			.075
緩いﾎﾞﾃﾞｨｰｽｰﾂ今後使用希望	.875	-.064	-.050	.059
補整ﾎﾞﾃﾞｨｰｽｰﾂ今後使用希望	.851			.149
補正ｶﾞｰﾄﾞﾙ今後使用希望	.814			.119
緩いｶﾞｰﾄﾞﾙ今後使用希望	.808	-.116	.061	.158
痩身ボディ用化粧品今後使用希望	.392	.101	.160	-.208
しわやたるみ防止化粧品今後使用希望	.349	.094	.092	.117
たるみ・しわの除去今後希望		.852	-.206	.290
肌の若返り今後希望	-.092	.756		.130
隆鼻術やあごの形成今後希望		.685	-.069	.096
しみそばかすほくろ除去今後希望	.053	.677	-.117	
豊胸術今後希望	-.054	.550	.072	
ｱｰﾄﾒｲｷﾝｸﾞ今後希望	-.093	.528	.128	.108
腹部の脂肪吸引による痩身今後希望	.233	.496	-.091	-.315
刺青今後希望	-.052	.490		.079
二重まぶたの形成今後希望		.466		.312
ﾎﾞﾃﾞｨﾍﾞｲﾝﾃｨﾝｸﾞ今後希望	-.121	.390	.180	.087
永久脱毛今後希望	.053	.333	.292	-.206
美白やしみ防止化粧品今後使用希望	.090	.227	.156	.133
ﾊｲﾋｰﾙ今後使用希望			.558	.197
中ﾋｰﾙ今後使用希望	-.111		.551	.160
柄付ﾏﾆｷｭｱ今後希望	-.095	.104	.544	-.087
付け爪今後希望		.212	.479	
無地ﾏﾆｷｭｱ今後希望	-.165		.464	
ｱｲｼｬﾄﾞｳ今後使用希望	.085	-.065	.419	.086
口紅今後使用希望	.178	-.169	.409	.178
ﾜｲﾔｰ入りﾌﾞﾗ今後使用希望	.124		.389	
ﾁｰｸ今後使用希望	.067	-.112	.377	
ﾌｧﾝﾃﾞｰｼｮﾝ今後使用希望	.200	-.158	.313	
ﾏｽｶﾗ今後使用希望	.064		.252	-.061
ﾊﾟｯﾄ入りﾌﾞﾗ今後使用希望	.125	.094	.239	.214
ﾋﾟｱｽ今後希望	-.058	.201	.222	-.141
ｱｲﾌﾞﾛｳ今後使用希望	.084		.115	.090
付まつげ今後使用希望	.234	.158	.095	.512
ｱｲﾌﾞﾁ今後使用希望	.212	.229		.488
脚部の脂肪吸引などの身体修整今後希望	.227	.420		-.432

欠点カバーの化粧行動である。身体改造肯定意識が負の係数になったことから、目の周辺の変身願望があっても二重手術のような美容外科施行には抵抗があると推測される。

太りやせに関して1970年代より体つきが細いことがもてはやされ、1980年代には正常な肉付きと健康が求められたとされる[14)15)]。このような社会的背景は女性の理想とする体型への願望を助長し、人が自己に対してもつ満足度、身体カセクシス[14)]への影響があるといわれている。このことは、自己の体型への不満足感が補整下着や美容外科を肯定する意識へとつながる可能性を示唆している。また、女子短大生の理想の体つきのイメージについて、理想と現実のギャップが自分の体つきに対する不満意識を形成するとされ[16)]、ガードルや美容外科の治療希望となっていると考えられる。

衣服を着用する際、体型を少しでも自己の理想に近づけるため、各自の体型の長所、短所に応じて配慮する傾向にあるといわれる[15)]。また、化粧は従来欠点カバーのための「自己隠蔽」の側面があると指摘され[17)]、化粧には隠す化粧と見せる化粧があるといわれている[18)]。一時的で洗い落とせる目の

表３　補整下着等での変身行動に及ぼす要因の重回帰分析結果

モデル	標準化されていない係数		標準化係数		
	B	標準誤差	ベータ	t	有意確率
1（定数）	9.091E-17	.050		.000	1.000
F2他者評価重視	.021	.062	.019	.331	.741
F3化粧肯定意識	-.018	.073	-.017	-.253	.800
F4美容外科治療安全性不安	.075	.071	.070	1.048	.296
F5ファッション興味	.094	.074	.083	1.261	.209
F6他者追随肯定意識	.170	.074	.148	2.305	.022
F7衣服機能性重視	-.052	.069	-.045	-.747	.456
F8経済性重視	.021	.061	.021	.350	.726

表４　美容外科施行に及ぼす要因の重回帰分析結果

モデル	標準化されていない係数		標準化係数		
	B	標準誤差	ベータ	t	有意確率
1（定数）	1.494E-17	.059		.000	1.000
F1身体改造肯定意識	.305	.068	.300	4.469	.000
F2他者評価重視	.202	.073	.191	2.782	.006
F3化粧肯定意識	.074	.085	.069	.872	.384
F4美容外科治療安全性不安	.075	.083	.071	.899	.370
F5ファッション興味	.083	.087	.075	.957	.340
F6他者追随肯定意識	.006	.086	.005	.067	.947
F7衣服機能性重視	-.125	.080	-.110	-1.551	.122
F8経済性重視	.051	.070	.052	.722	.471

表５　化粧行動に及ぼす要因の重回帰分析結果

モデル	標準化されていない係数		標準化係数		
	B	標準誤差	ベータ	t	有意確率
1（定数）	1.126E-16	.053		.000	1.000
F1身体改造肯定意識	.204	.062	.214	3.301	.001
F2他者評価重視	-.032	.066	-.032	-.484	.629
F3化粧肯定意識	.177	.077	.176	2.305	.022
F4美容外科治療安全性不安	-.153	.075	-.155	-2.036	.043
F5ファッション興味	.304	.079	.292	3.865	.000
F6他者追随肯定意識	-.053	.078	-.050	-.679	.498
F7衣服機能性重視	-.124	.073	-.117	-1.704	.090
F8経済性重視	-.032	.064	-.035	-.504	.615

表６　目の周り化粧行動他に及ぼす要因の重回帰分析結果

モデル	標準化されていない係数		標準化係数		
	B	標準誤差	ベータ	t	有意確率
1（定数）	-8.246E-18	.056		.000	1.000
F1身体改造肯定意識	-.157	.065	-.173	-2.390	.018
F2他者評価重視	.050	.070	.053	.716	.475
F3化粧肯定意識	.077	.081	.081	.945	.346
F4美容外科治療安全性不安	-.031	.080	-.033	-.383	.702
F5ファッション興味	-.051	.083	-.052	-.617	.538
F6他者追随肯定意識	.268	.082	.268	3.251	.001
F7衣服機能性重視	-.168	.077	-.167	-2.182	.030
F8経済性重視	-.058	.068	-.067	-.862	.390

周囲のメイクアップ、そしてガードルやファンデーションの着用への希望、さらに美容外科の治療への希望があり、これらは、すべてが自己の理想像に近づくための方法であり、自己の欠点を隠す、あるいは見せるという意味において、一つの美意識を形成していると考察される。このような美意識と関わる行動について、ファンデーション着用による弊害経験がブラジャーやガードルを着用しない行動とかかわっているとされ[19]、化粧、補整下着にはこのような経験則による規制が可能であるが、美容外科の治療についてはこの限りではないという問題があり、美容外科のトラブルへと発展している現状がある。

UV、美白、そしてアンチエイジングと称される不老願望をキーワードに化粧品業界は急成長を遂げ[20][21]、補整下着を推奨する本も出版されている[22][23]。さらに、体形をコントロールするのに補整下着にたよるのではなく身体そのものをコントロールするダイエットやエクササイズという新しい概念が確立、普及した[24]。これらのことより、身体改造の欲望が服装、下着、化粧などの狭い範囲でのファッションの分野からスポーツ、エステ、美容整形、タトゥにいたる極めて多様な身体文化の領域を越境し、拡張しているとされる[25]。子ども向けの化粧方法[26]、アンチエンジングケアに関して[27]、あるいは、若く見える姿勢としぐさに関する本も出版されている[28]。女性の美意識に対するファッション雑誌やマスメディアの影響が大きいとされ[18]、現代女性のやせたい願望は強大化した国際ファッション産業、および化粧品やエステティク、美容整形などの美容産業によって駆り立てられ、たえず再生産されつづける「操作された欲望」であり[29]、さらにダイエットの極限は美容整形であるとされる[30]。このような問題に関わり十代向けの健康を害する誤ったおしゃれに警告する「おしゃれ障害」が出版され[31]、美と若さを求めて暴走する整形中毒者たちが「ビューティ・ジャンキー」という言葉で紹介されている[32]。そして、このような女性の美意識について、摂食障害への対応の立場からその根本要因として、女性が自らの身体を肯定することを困難にさせている社会的な力の分析こそが急がれなければならないという主張がある[33]。先に述べた問題を解決するためには、女性の美意識をめぐるこれらの社会的背景について理解を深める必要があると考察される。

本調査の結果では、身体改造肯定意識、他者追従肯定意志が補整下着での変身行動に影響していた。また、身体改造肯定意識と他者評価重視が美容外科施行に影響していた。身体改造肯定意識と化粧肯定意識が化粧行動に、他者追従肯定意識が目周辺化粧行動に影響していた。大学生の意識として、身体を変えたいと思い、また、他者に追従して補整下着を手に取る。身体を変えたいと思い、他者の評価を意識して美容外科施行の行動を希望する。さらに、身体を変えたい、また化粧したい、ファッションへの興味意識が化粧行動に寄与する、他者追随肯定意識、すなわちみんなと同じが良いとする意識が目周辺の化粧行動の希望につながっていた。このうち、身体改造肯定意識は、補整下着、美容外科、化粧、目周辺化粧のいずれの行動にも寄与している点が興味深い。短期大学生のこのような意識がどのように醸成されるか、本研究では明らかするに至ってないが、先に述べたマスメディア等に見られる、女性に関わる美意識への追従や、これを基準とする評価が、

補整下着、美容外科、化粧行動に影響するとも考えられる。

４．まとめ

美容外科の治療のトラブル防止の観点を背景に、若年群を対象に、化粧、補整下着、美容外科に対する意識について、特に、これらの経験、現状、今後に着目し調査、検討した。

調査は2005年10月から12月に、東京都のO女子大学短期大学部、家政学関連学科の学生540名を対象として、質問紙による集合調査法により実施した。回収数は534部、回収率は98.8％であった。これらのうち、ファッション、および化粧、補整下着、美容外科に対する意識についての質問項目のすべてに回答している212部について、分析をおこなった。

その結果、現在使用している化粧、補整下着は限定されているが、今後、しみやたるみ、しわには化粧品を使用したいと考えていると推察された。補整下着については現状では使用してないガードルやボディスーツを今後使用したいという希望があると推察された。さらに美容外科についても特にプチ整形といわれるような簡単な治療のみならず、腹部や脚部の脂肪吸引への希望も見られた。

身体改造を肯定する意識は、補整下着、美容外科施行、化粧行動、目周辺化粧行動のいずれにも寄与しており、美容外科等をめぐる社会問題について解決するには、この意識がどのように醸成されるかについて検討する必要性が示唆された。

本研究においては、調査票の提出をもって、調査に賛同を得たこととした。調査票については、厳重に管理し、データ解析後はシュレッダー処理を行った。

本研究に当たり、北里大学名誉教授の内沼栄寿先生にご助言を頂きました。厚く感謝申し上げます。

引用文献

１）『美容衣料の苦情が急増』（2004年12月28日）朝日新聞
２）『「痛みゼロ」「メーク感覚」・・・甘い文句にご注意』（2006年10月３日）朝日新聞
３）社団法人日本美容医療協会『安心できる美容医療の正しい知識』（2006年10月社団法人日本美容医療協会市民口座にて配布）
４）『60、70歳台向け「美容塾」人気』（2002年５月31日）朝日新聞
５）『化粧する子どもが急増　８割以上が経験あり』（2003年９月９日）日経流通新聞
６）杉山真理、小林茂雄；女子大学生　・母親　・女子社員間の化粧の心理的効果（1996）繊機誌49、P205-211
７）小松秀雄；おしゃれ白書2003（2004）ポーラ文化研究所
８）村澤博人ほか；おしゃれ白書1991～2000（2001）ポーラ文化研究所
９）市田正成ほか；３、68（1981）日美外報
10）中村元信ほか；14、166（1992）日美外報
11）斉藤秀子ほか；補正下着、化粧、美容整形に対する意識についての事例的研究-若年群と中年群との比較-（2006）日本衣服学会誌、50、P43
12）尾崎達也編；エイジングの化粧学（1998）早稲田大学出版部、P200、203

13）水島広子；「やせ願望」の精神病理（2001）PHP研究所、P21
14）高木修監修；被服と化粧の社会心理学（1996）北大路書房、P59、55、66
15）枡田庸；身体意識と着装（1999）繊消誌、40、P626-632
16）布施谷節子ほか；女子短大生のからだつきに対する意識とそれを形成する要因（1998）家政誌、49、P1037-1044
17）石田かおり；化粧せずには生きられない人間の歴史（2000） 講談社、P188
18）大坊郁夫；化粧行動の社会心理学（2001）北大路書房、P５、
19）岡田宣子；体つきの意識と生活行動-女性の下着の衣生活を中心として-（1992）家政誌、 43、 P37-44
20）三田村蕗子；夢と欲望のコスメ戦争（2005）新潮社、P109、
21）水尾順一；化粧品のブランド史（1998）中央公論新社、P166
22）MISA；初めてのボディメイク（2004）彩流社、P12
23）ナガイユウコ；このブラで変わる（2005）サイビズ、P16
24）古賀令子；コルセットの文化史（2004）青弓社、P132
25）荻野美穂；ジェンダー化される身体（2002）勁草書房、P358
26）エンジェル明世；親子でおぼえる初めての化粧（2003）現代書林、P66
27）小林照子監修；おうちでかんたんアンチエンジングケア（2007）成美堂出版、P120
28）山岡有美；10歳若く見える姿勢としぐさ（2003）草思社、P96
29）東京造形芸術大学編；モードと身体（2003）角川書店、P149
30）海野弘；ダイエットの歴史（1998）新書館、P251
31）岡村理栄子編著；おしゃれ障害（2003）少年写真新聞社、Ｐ８
32）アレックス・クチンスキー著、草鹿佐恵子訳；ビューティ・ジャンキー（2008）バジリコ出版、Ｐ７
33）浅野千恵；女はなぜやせようとするのか（1996）、勁草書房P211

Attitudes towards foundation,makeup and cosmetic surgery

― A case study for female students of junior college―

Hideko SAITO*　Rumi SETO**　Yayoi SATSUMOTO***
Naomi MARUTA**　Isako NOMIYAMA****

Abstract

Over the past decade there has been a marked increase in the number and activity of large businesses targeting women's notions of aesthetic beauty, a trend that has contributed to new problems. In Japan, complaints regarding aesthetic medicine have been on the rise since 1997. To illuminate Japanese women's attitudes towards aesthetic beauty, a survey was conducted among junior college students in 2005. The survey examined the women's behavior -- for example, their use of makeup and body-shaping undergarments -- and their feelings about plastic surgery. An analysis of the survey results revealed that the female students possessed negative feelings about their bodies. While their use of cosmetics and body-shaping undergarments was limited in 2005, the students expressed a desire to treat signs of aging with cosmetics and even plastic surgery in the future. In addition, the study revealed they would also consider eventually wearing body-shaping undergarments, such as girdles and slimming bodysuits, and wearing high heels.

Key words:
foundation, makeup, cosmetic surgery, female students

*Yamanashi Prefectural University　**Kyoritsu Women’s University
***Yokohama　National　University　****Otsuma Women’s University